

令和4年度 中日本高速道路株式会社 事業評価監視委員会 議事要旨

1. 日時：令和 4年12月21日（水）15：00～15：50
2. 場所：中日本高速道路株式会社 5階501、502会議室
3. 出席委員：中村委員長、亀井委員（※）、服部委員、二村委員、増田委員  
（※亀井委員のみオンライン会議での参加）
4. 議事要旨

○新東名高速道路（海老名南JCT～御殿場JCT）再評価 対応方針（原案）の審議

新東名高速道路（海老名南JCT～御殿場JCT）の再評価 対応方針（原案）を審議し、対応方針について原案のとおり了承された。

○主な意見

- ・本路線は、物流・人流双方において非常に重要なもので、事業の妥当性自体は疑う余地がなく**事業継続は妥当**。事業完成による便益も計り知れないところで、一日も早い開通に向けて事業を推進頂く方向性で問題ない。
- ・コスト増加については自然相手で予測できない部分があり、安全第一で事業を進めるためやむを得ないものの、今後のコスト縮減や効率的な事業推進に努める必要がある。総事業費を抑え込み、トータルでの事業性を確保することが重要な視点。
- ・南海トラフ巨大地震予測震度分布図による東名、新東名通過地域の予測震度では、東名が震度7地域、新東名が震度6地域を通過しており、巨大地震発生時の被害予測も大きく異なると考えられる。巨大地震発生確率が高い中で東名とのダブルネットワークとなることで、新東名がライフラインの役割を果たすことが期待され、早期の全線開通を実現頂きたい。また、リニューアル工事推進時のリダンダンシー（冗長性）向上も大変重要。
- ・東名大井松田～御殿場間は山間部を通過し線形が良くないためサービスレベルとしてあまりいい状況ではない。本路線開通による交通転換でサービスレベルの向上も期待できる。

以上